

【規格名（和名、英名）】

患者状態アウトカム用語集ベーシックアウトカムマスター

Basic Outcome Master for Patient state

【規格の目的（ユースケースを含む）】

患者状態アウトカム用語集ベーシックアウトカムマスターは、診療現場で実際に使用されている臨床医療用語を収集、構造化した、クリニカルパスに用いる用語のマスター集で、電子的処理を目的としています。患者の日々の望ましい結果、達成すべき状態（アウトカム）とその評価基準（観察項目と適正值）で構成されています。

(1) アウトカム

アウトカムは、比較的粒度の大きな用語で構造化され、体系的な分類となっています。大分類は「患者状態」「知識・教育・理解」「生活動作・日常動作・リハビリ」「その他」の4項目が設定されています。中分類は原則、臓器や機能別に分類されていますが、アウトカムを容易に検索できる項目（「ドレーン管理」「疼痛管理」など）も加え、合計40項目に分類されています。中分類の下位にアウトカムを設置し、さらに、その下位に観察項目を設けています。

(2) 観察項目

観察項目は、一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）から提供されている看護実践用語標準マスター【看護観察編】に準拠した表現で62分類あり、また、観察項目名称が容易に検索できるように、患者状態や生活動作・日常動作・リハビリのアウトカムにひも付けられる「観察項目分類」を設定しています。これにより、アウトカムや中分類から「観察項目名称」が検索可能です。さらに、「観察項目名称」には看護実践用語標準マスター【看護観察編】に記載されている「観察名称管理番号」が付与さ

れ、看護実践用語標準マスター【看護観察編】の観察名称とひも付けています。

クリニカルパスの作成には、アウトカムと観察項目が用いられます。観察項目は、疾患や患者状態によって、あるいは病期によって内容が異なるため、必ずしも常に同じ組み合わせではありません。したがって、現時点では、各施設、各診療科、各疾患でそれぞれ独自に観察項目を設定します。

【規格の適応領域】

クリニカルパスにおける、オーバービューや日めくりでの日々の目標、その判断基準を表示する場面で、当該画面を構成する表記内容として利用します。

本マスターを利用することにより、クリニカルパスを新たに導入する際のマスター準備作業の労力を低減できます。さらに、標準化が進めば、大規模共同治療研究、疫学研究、副作用情報の収集など電子的利用範囲が拡大すると考えます。

【関連他標準との関係】

一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）の看護実践用語標準マスター【看護観察編】とひも付けが行われています。

【規格の入手方法】

日本クリニカルパス学会のホームページから問い合わせし、郵送により入手可能です（<http://www.jscp.gr.jp/>）。

【メンテナンス状況】

日本クリニカルパス学会標準化委員会により検討された内容をもとに、バージョンアップを行っています。

【現在の改版状況】

Ver.3.0（2019年6月1日リリース）、
収載用語数は以下のとおりです。

アウトカム数 303件

観察項目数 1,477件